



国土を整え、全力で備える

国土交通省
中国地方整備局

Ministry of Land, Infrastructure, Transport and Tourism
Chugoku Regional Development Bureau

お知らせ

記者発表資料
配布日時

令和6年11月6日

■同時発表先:

合同庁舎記者クラブ・鳥取県政記者会・島根県政記者会・広島県政記者クラブ

山口県政記者クラブ・山口県政記者会・山口県政滝町記者クラブ・中国地方建設記者クラブ

令和6年11月1日からの出水では、5か年加速化対策等による 河道整備やダムの洪水調節等により家屋等の浸水被害を回避。

～中国地方整備局管内の出水概況【第1報】～

台風第21号から変わった低気圧や前線の影響による中国地方の降雨、河川の水位、浸水被害や中国地方整備局の対応状況等を取りまとめました。

今回の出水では、5か年加速化対策等による河道整備やダムの洪水調節等により、直轄管理区間において家屋等の浸水被害を回避しました。

【資料の特徴】

- ・ 主な河川における出水概要のほか、直轄管理ダムの洪水調節状況、河川の被害状況・対応状況等を一覧で確認できます。

【資料の掲載場所】

- ・ 中国地方整備局ホームページ（中国地方整備局管内の出水概況）
<https://www.cgr.mlit.go.jp/kisya/pdf/241106-2top.pdf>

【主な内容】

- ・ 気象及び出水の概要
- ・ 主な河川における水位の状況
- ・ 被災状況について
- ・ 避難に係る情報提供
- ・ 治水事業の効果について 等

【問い合わせ先】

国土交通省 中国地方整備局

☎ (082) - 221 - 9231 (代表) (平日昼間)

河川部 河川調査官

にし お まさ ひろ
西 尾 正 博

河川計画課長

むかい だ きよ たか
向 田 清 峻

令和6年11月1日から2日にかけての大雨 中国地方整備局管内の出水概況【第1報】11月6日(水)

江の川(下流) 田津地区(令和6年11月2日16時撮影)



国土を**整**え、全力で**備**える

国土交通省

中国地方整備局 河川部

～目 次～

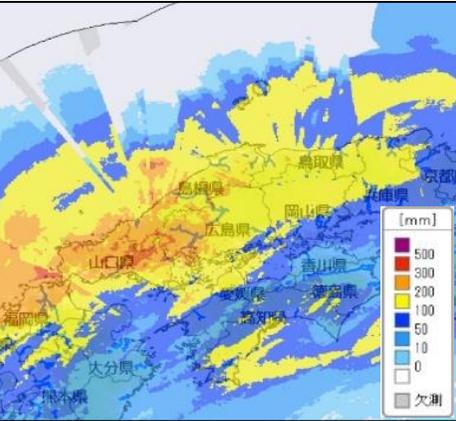
1. 気象及び出水の概要 ……P2～5
2. 中国管内における主な浸水被害 ……P6～7
3. 主な河川における水位の状況、被災状況 ……P8～14
1) 江の川, 2) 佐波川
4. 避難に係る情報提供 ……P15～16
5. 治水事業の効果について ……P17～30

1. 気象及び出水の概要

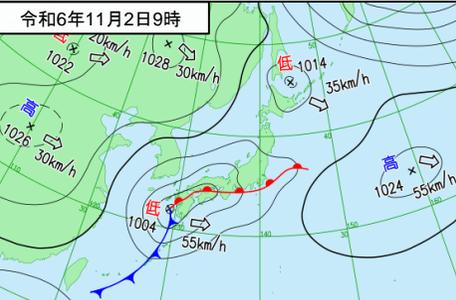
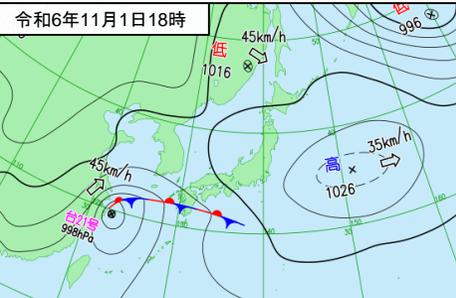
気象概要(令和6年11月1日~2日出水)

- 令和6年11月1日から2日にかけて、西日本に停滞する前線を台風第21号から変わった低気圧が東シナ海を東へ進んだことにより、中国地方では、所により200mm/24時間（1日12時から2日12時）を超える大雨となった。
- 江の川水系江の川では、谷住郷（たにじゅうごう）水位観測所において氾濫危険水位（レベル4 避難を求める段階）を超過した。
- 佐波川水系佐波川では、漆尾（うるしお）水位観測所において、避難判断水位（レベル3 高齢者等避難を求める段階）を超過し、11月としては1ヶ月分累加雨量の平均値の3倍に匹敵する異例の記録的な大雨となった。

■ 24時間累加雨量図（11月1日12時から2日12時）



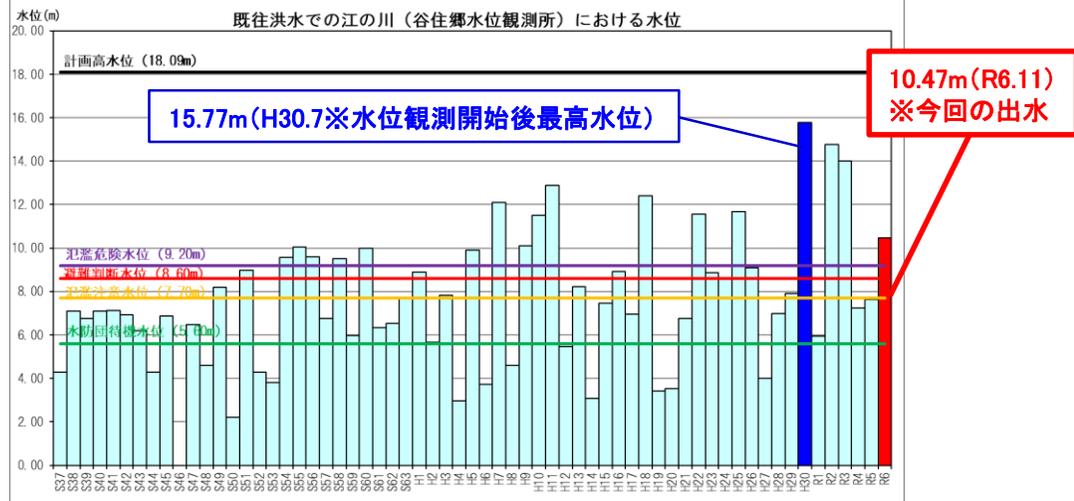
■ 実況天気図



■ 江の川水系流域図



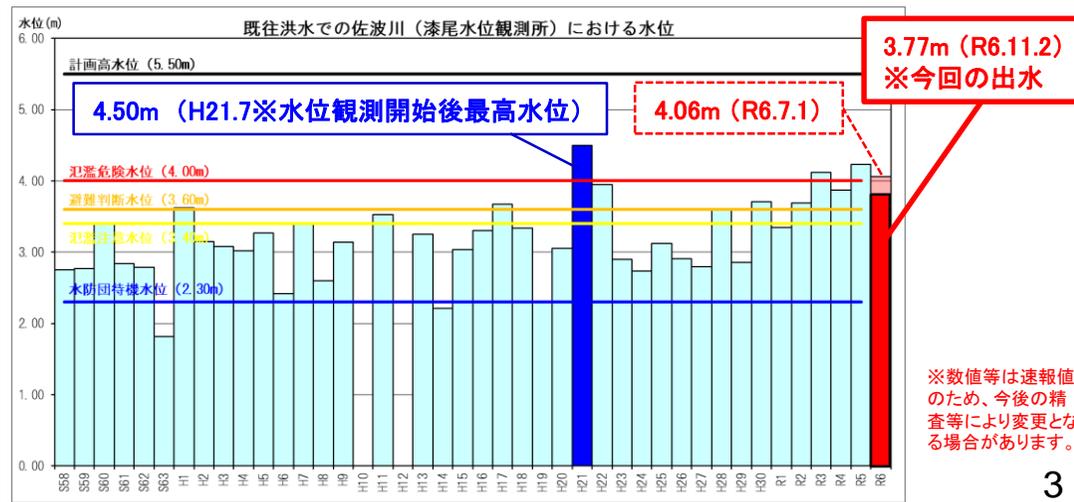
■ 江の川水系江の川 谷住郷水観測所における年間最大水位の比較表



■ 佐波川水系流域図



■ 佐波川水系佐波川 漆尾（うるしお）水位観測所における年間最大水位の比較表



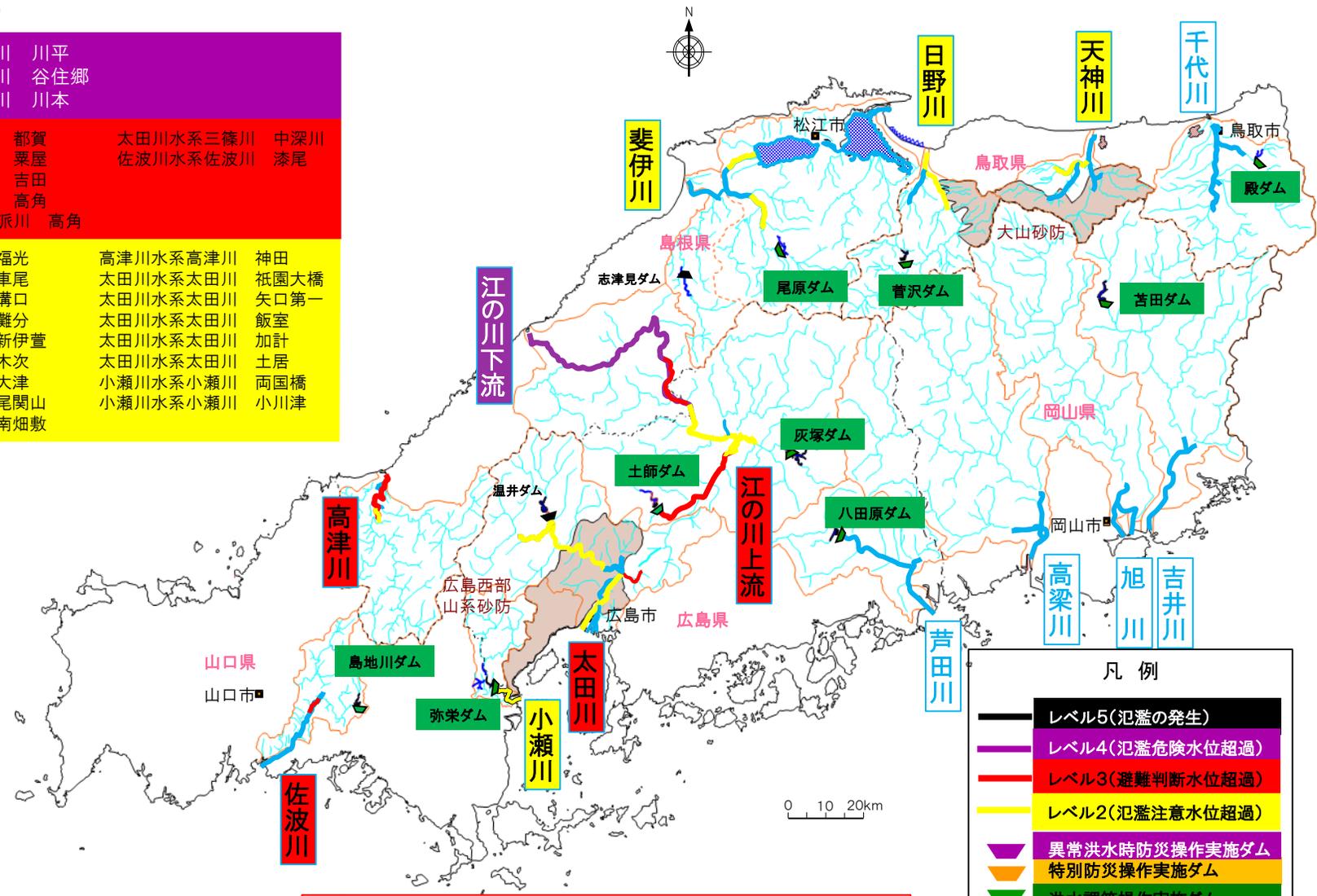
※数値等は速報値のため、今後の精査等により変更となる場合があります。

国管理河川の状況

■ 今回の出水では国管理河川において 1 水系 1 河川 3 観測所で「氾濫危険水位」を超過、 4 水系 5 河川 7 観測所で「避難判断水位」を超過、 7 水系 8 河川 17 観測所で「氾濫注意水位」を超過しました。

■ 河川出水状況（国管理区間）

★レベル4 氾濫危険水位超過 1 水系 1 河川 3 観測所	江の川水系江の川 川平 江の川水系江の川 谷住郷 江の川水系江の川 川本		
★レベル3 避難判断水位超過 4 水系 5 河川 7 観測所	江の川水系江の川 都賀 江の川水系江の川 粟屋 江の川水系江の川 吉田 高津川水系高津川 高角 高津川水系高津川派川 高角	太田川水系三篠川 中深川 佐波川水系佐波川 漆尾	
★レベル2 氾濫注意水位超過 7 水系 8 河川 17 観測所	天神川水系国府川 福光 日野川水系日野川 車尾 日野川水系日野川 溝口 斐伊川水系斐伊川 灘分 斐伊川水系斐伊川 新伊萱 斐伊川水系斐伊川 木次 江の川水系江の川 大津 江の川水系江の川 尾関山 江の川水系馬洗川 南畑敷	高津川水系高津川 神田 太田川水系太田川 祇園大橋 太田川水系太田川 矢口第一 太田川水系太田川 飯室 太田川水系太田川 加計 太田川水系太田川 土居 小瀬川水系小瀬川 両国橋 小瀬川水系小瀬川 小川津	



※数値等は速報値のため、今後の精査等により変更する場合があります。

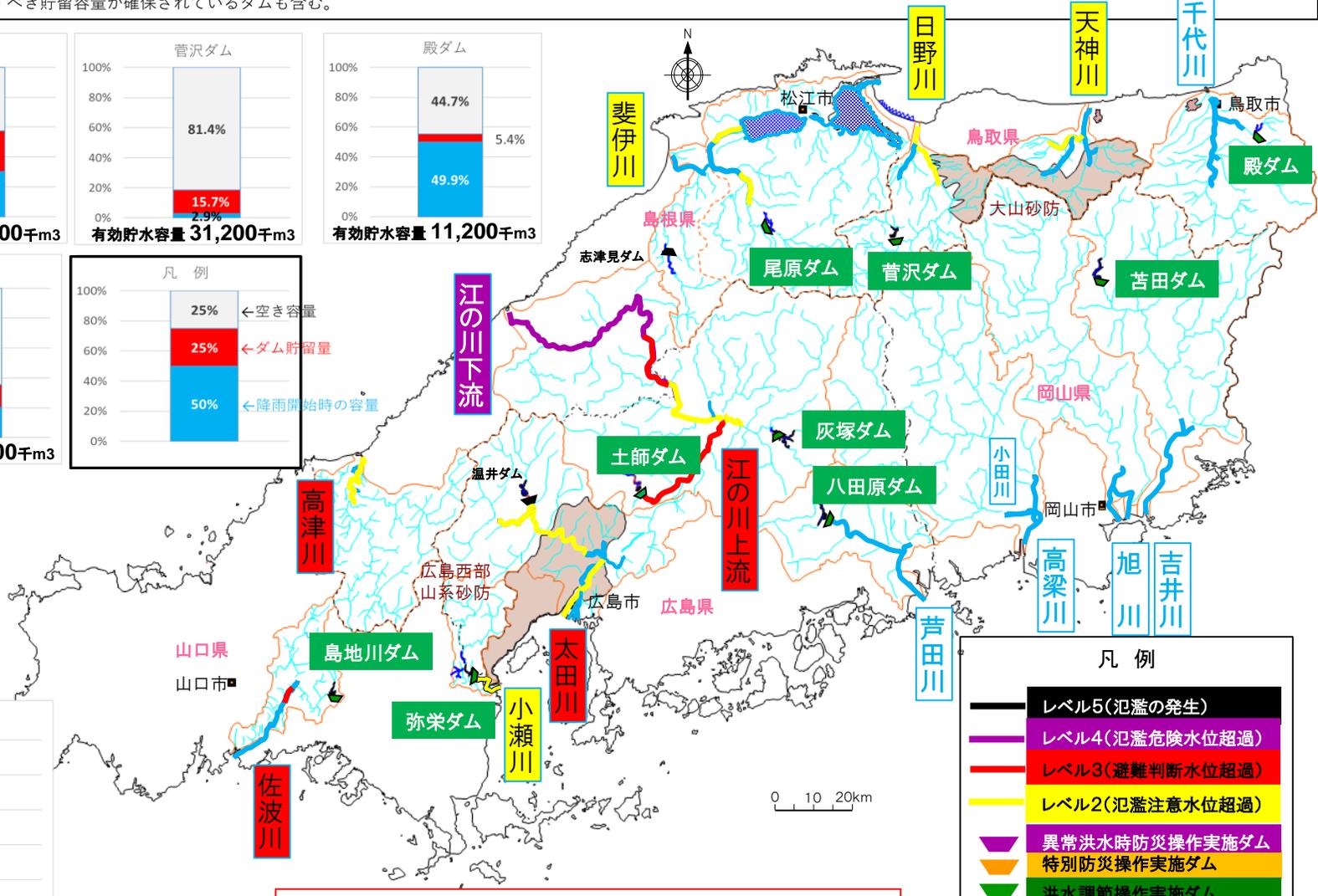
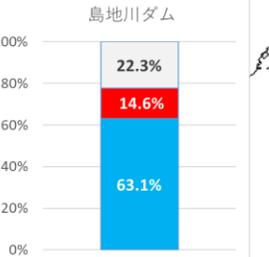
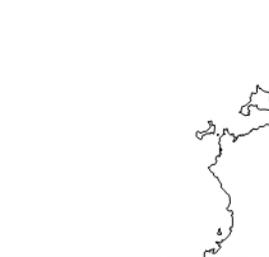
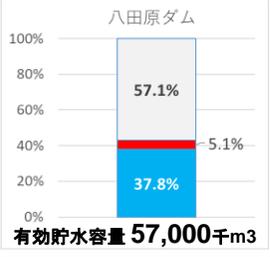
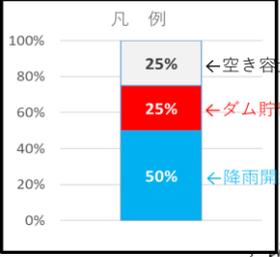
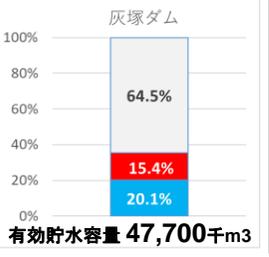
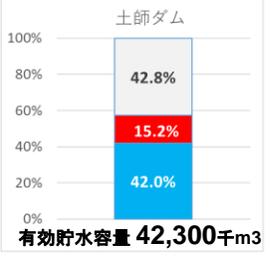
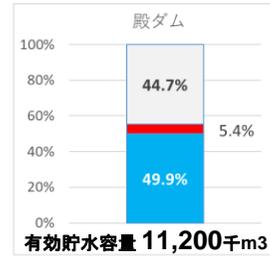
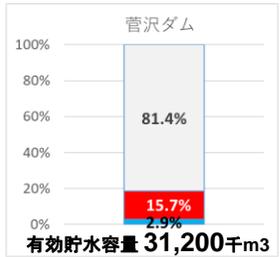
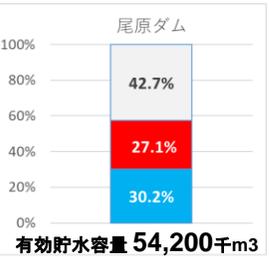
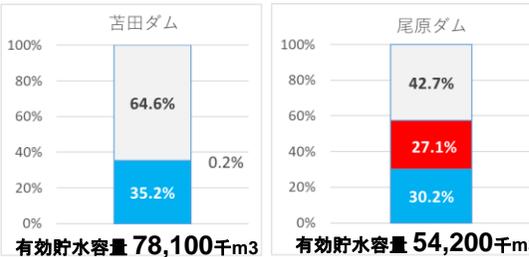
凡例

黒色	レベル5(氾濫の発生)
紫色	レベル4(氾濫危険水位超過)
赤色	レベル3(避難判断水位超過)
黄色	レベル2(氾濫注意水位超過)
紫色△	異常洪水時防災操作実施ダム
オレンジ△	特別防災操作実施ダム
緑△	洪水調節操作実施ダム

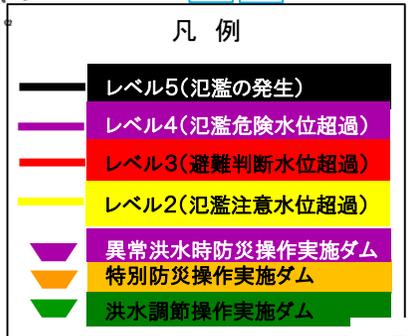
中国管内の国直轄管理ダムによる洪水貯留

- 洪水貯留操作を行った管内の国直轄管理9ダムにより、約46,312千m³の洪水を貯留し、下流河川の水位低減させた
- 国直轄ダム、補助ダム、利水ダムにおいて事前放流※¹を実施し洪水に備えた（合計4ダム）
（既に容量を確保したダム6ダム）

※1 『事前放流』とは、計画規模以上の大雨となることが予想される場合に、河川の水量が増える前に利水容量から放流して一時的にダムの貯水位を下げ容量を確保しておくこと。
また、本洪水に対して既に確保すべき貯留容量が確保されているダムも含む。



※数値等は速報値のため、今後の精査等により変更する場合があります。



2. 中国管内における主な浸水被害

中国管内における主な浸水被害

国 管 理 河 川



3. 主な河川における水位の状況、被災状況

1) 江の川

2) 佐波川

1) 江の川水系江の川の出水状況(CCTV映像)

江の川水系江の川(川越地先) 平常時



11月2日 17時頃



江の川水系江の川(粟屋水位観測所付近) 平常時



11月2日 12時頃



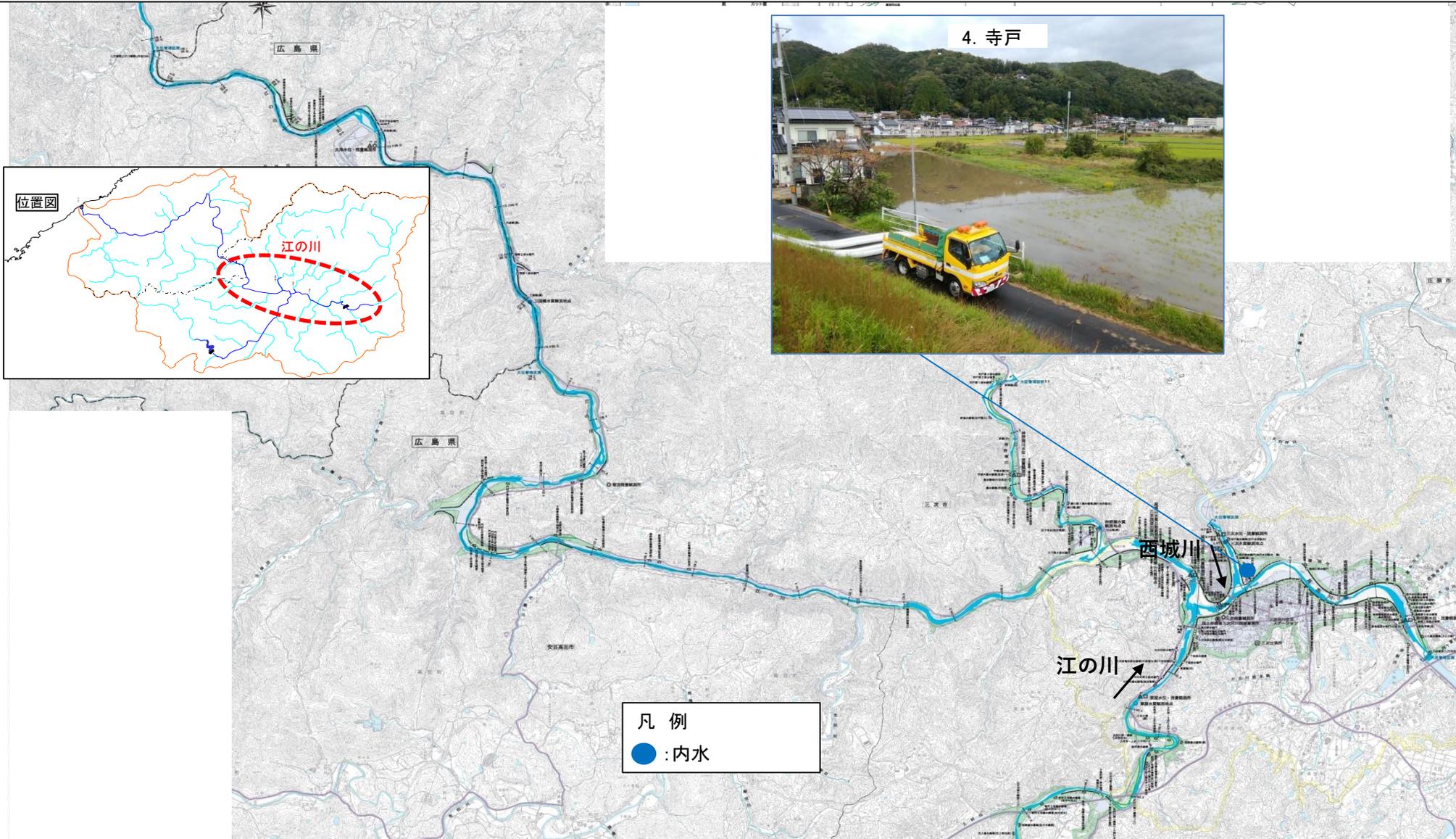
1) 江の川水系江の川下流部の被災状況

■ 江の川下流部(島根県側)の沿川において、浸水面積:10ha(調査中含む)の浸水被害を確認しました。



1) 江の川水系西城川の被災状況

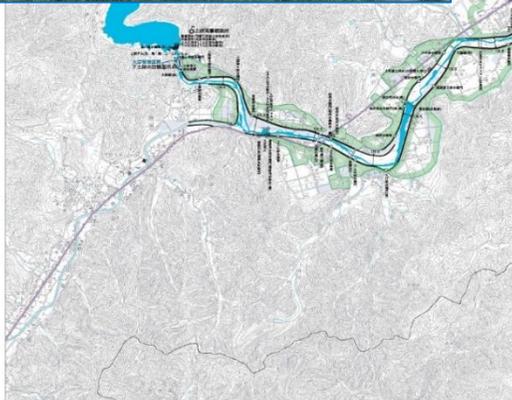
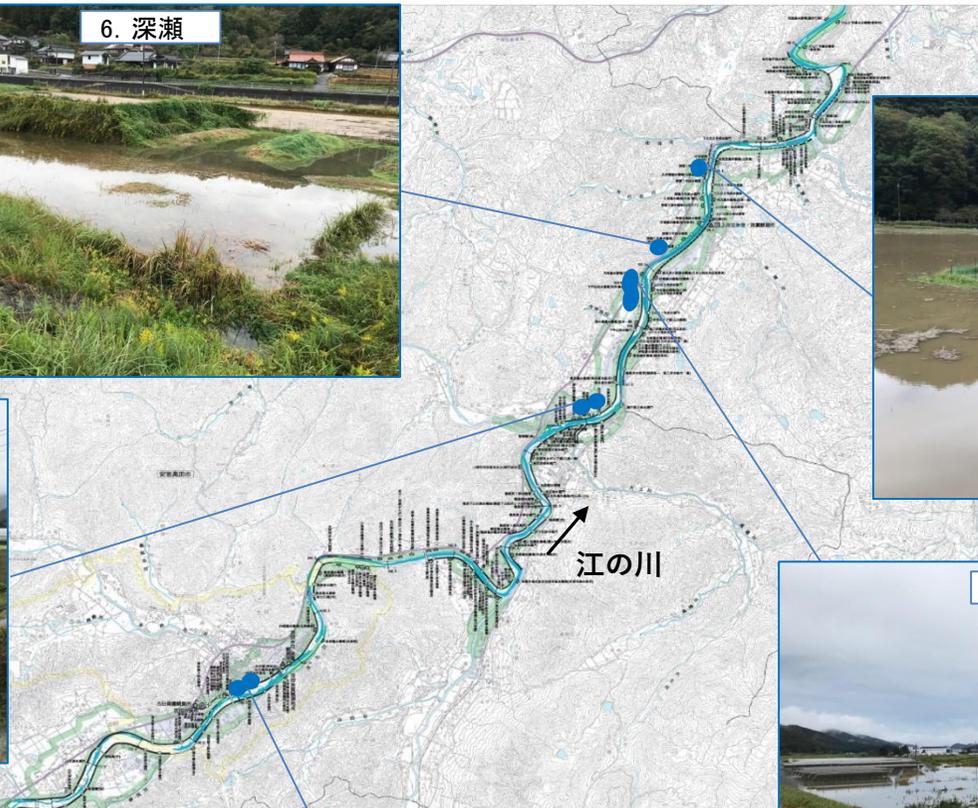
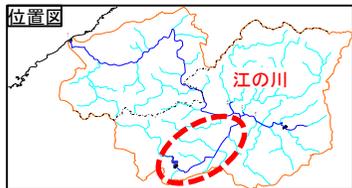
■ 江の川上流部(広島県側)の支川西城川において、浸水面積: 0.4haの浸水被害を確認しました。



※数値等は速報値のため、今後の精査等により変更する場合があります。

1) 江の川水系江の川上流部の被災状況(2)

■ 江の川上流部(広島県側)の沿川において、浸水面積: 5.1haの浸水被害を確認しました。



凡例
● : 内水

※ 数値等は速報値のため、今後の精査等により変更する場合があります。

2) 佐波川水系佐波川の出水状況(CCTV映像)

佐波川水系佐波川(漆尾水位観測所付近) 平常時



11月2日 10時頃



佐波川水系佐波川(新橋水位観測所付近) 平常時



11月2日 10時頃



2)佐波川水系佐波川の被災状況

■佐波川の沿川において、浸水面積：2.1haの浸水被害を確認しました。



※数値等は速報値のため、今後の精査等により変更する場合があります。

4. 避難にかかる情報提供

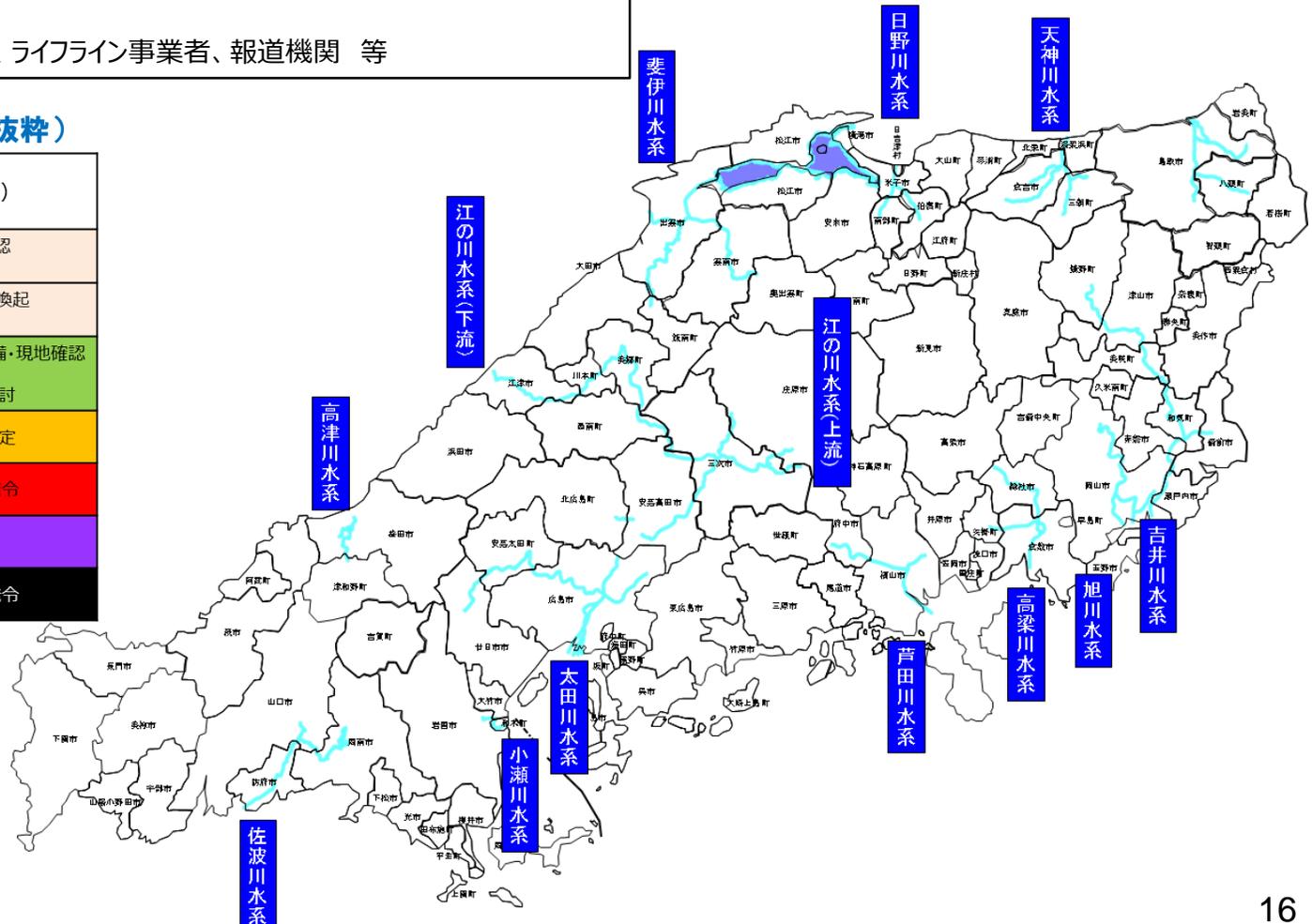
水害対応タイムラインの活用

- 災害発災前の危機感共有と、的確な事前防災行動を取るための防災行動計画（水害対応タイムライン）を、中国地方整備局管内の一級水系13水系において策定しています。（江の川は上流・下流でそれぞれ作成）
- 今回の大雨では12水系でタイムラインを立ち上げ、各レベルで定められた防災行動を実施しました。

- 水害対応タイムラインとは、災害の発生が予想される際に、時間軸に沿ってレベル毎に整理した各防災関係機関が取り組むべき項目を定めた、共通の防災行動計画。
 - 台風及び前線性の降雨に対応し、災害発生のおそれがある場合に行動を開始。
 - 気象情報の見通しなどWeb会議ツール等による危機感の共有。
- 【連携する機関】
国、流域内の地方自治体、ダム管理者、交通機関、ライフライン事業者、報道機関 等

江の川(下流)水害タイムライン（一部内容抜粋）

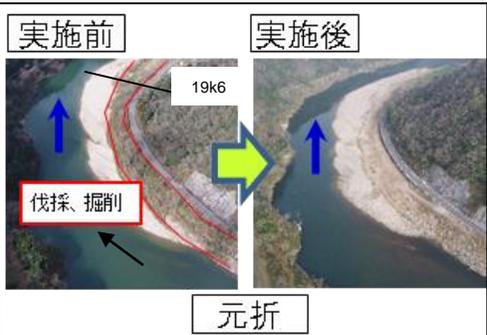
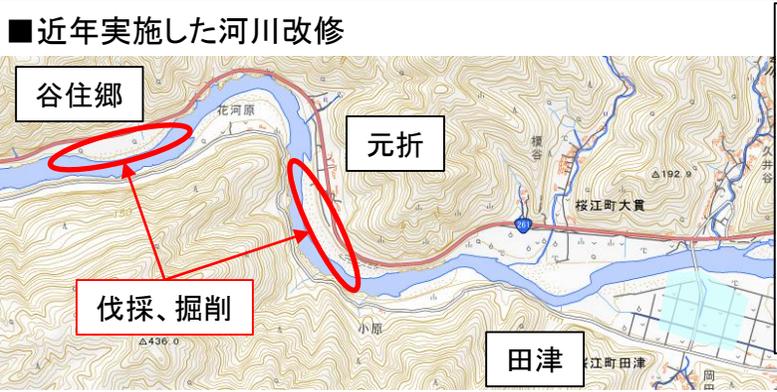
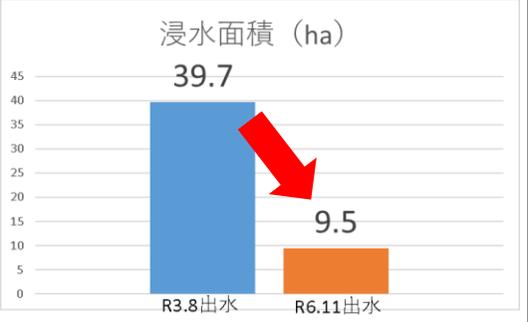
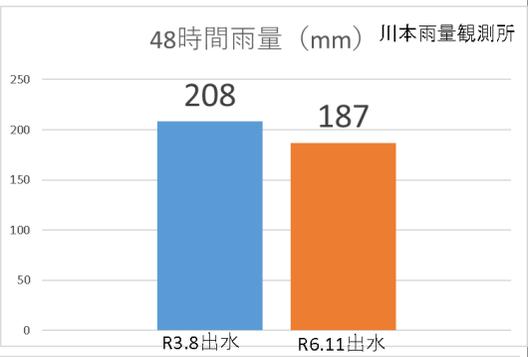
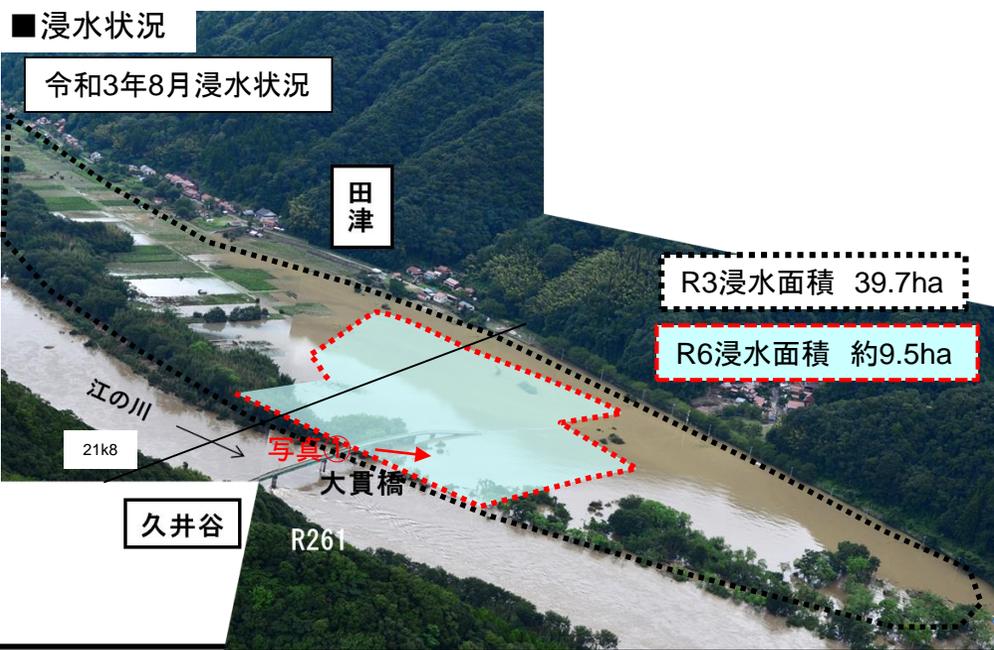
タイムラインレベル	想定状況（例）	行動項目（例）
0 (3日前)	3日後に台風被害の恐れ	(県・市町村)備蓄資材確認 (報道)気象情報の報道
0 (2日前)	2日後に台風被害の恐れ	(市町村)住民等への注意喚起 避難所の開設
1	水防団待機水位超過	(市町村)水防団による準備・現地確認 臨時休校の検討 (交通機関)計画運休の検討
2	氾濫注意水位超過	(交通機関)計画運休の決定
3	避難判断水位超過	(市町村)高齢者等避難発令
4	氾濫危険水位超過	(市町村)避難指示発令
5	氾濫発生	(市町村)緊急安全確保発令



5. 治水事業の効果について

【河道掘削等の効果】江の川(下流)直轄河川改修事業

- 前線の影響により、江の川の川本雨量観測所の雨量は187mm(11月1日(金)10:00~2日(土)13:00)を記録し、^{たにしゅうごう}谷住郷水位観測所で氾濫危険水位を超過しました。
※令和3年8月豪雨の川本雨量観測所の雨量は208mm(8月13日1:00~14日24:00)
- 田津地区では、「緊急対策特定区間」に設定した重点的な河川整備や「防災・減災、国土強靱化のための5か年加速化対策」により河道掘削、樹木伐採を進めており、今回の出水では、令和3年8月豪雨より**浸水面積が軽減し**、約20cmの水位低減効果があり、**家屋浸水被害を回避しました。**



※数値等は速報値のため、今後の精査等により変更する場合があります。

河川改修による治水効果(江の川水系江の川(上流))

速報版

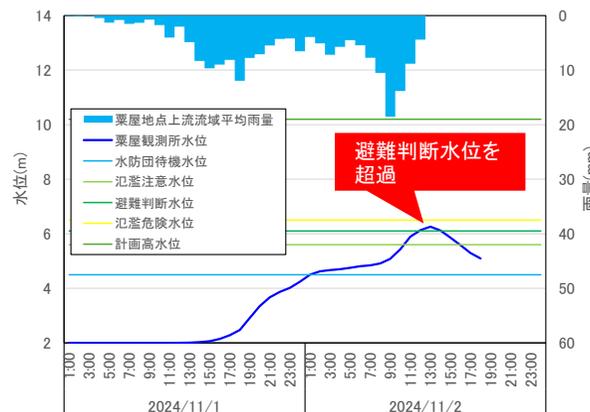
- 前線の影響により、江の川栗屋地点上流の流域平均雨量は183mm(24時間雨量:11月1日(金)13:00~2日(土)12:00)を記録。
- 栗屋水位観測所では、避難判断水位を0.15m超過。
- 広島県三次市青河町片山地区では、令和2年度に防災・減災、国土強靱化のための5ヵ年加速化対策で完成した堤防により、今回の洪水では、3戸の家屋の浸水被害を防止したものと推測される。

※数値等は速報値のため、今後の精査等により変更する場合があります。

位置図



出水状況



令和6年11月2日 13:30の状況



令和6年11月出水 流量:栗屋地点約1,120m³/s

整備前

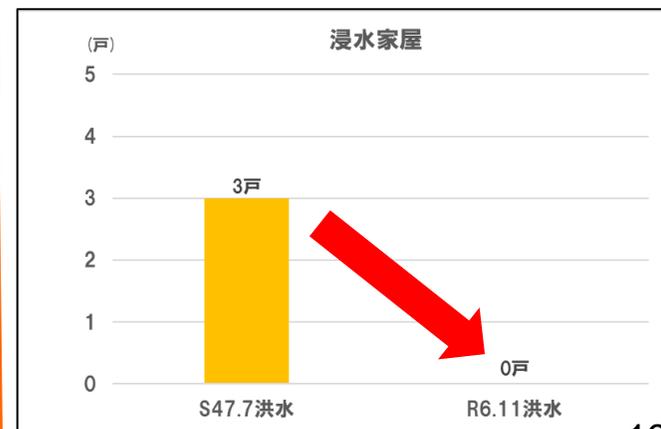
平成31年11月撮影



整備後



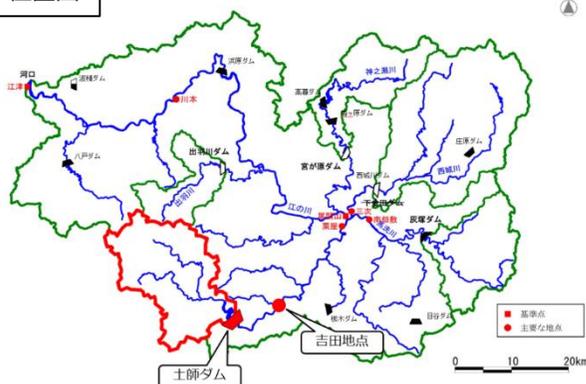
改修による効果



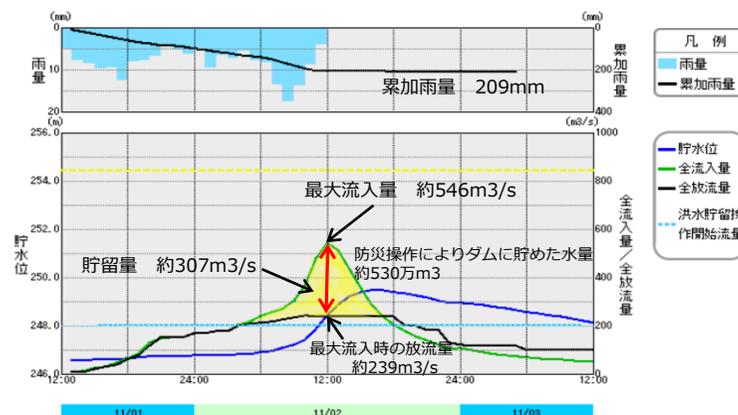
— ダムの効果により、河川水位を102cm低下させる —

- 前線の影響による11月1日10時から2日12時までの降雨により、土師ダム上流では流域平均累加雨量**209mm**を記録しました。
- 土師ダムでは、ダムへの流入量が最大で毎秒約546m³に達し、このとき毎秒約307m³の水をダムに貯めました。
- この結果、安芸高田市吉田町付近の江の川の水位を約102cm低減させる効果があり、氾濫危険水位の超過を抑えることができたと推定されます。そのことから、安芸高田市の吉田観測所水位が氾濫危険水位超過に至りませんでした。

位置図



土師ダムの調節効果

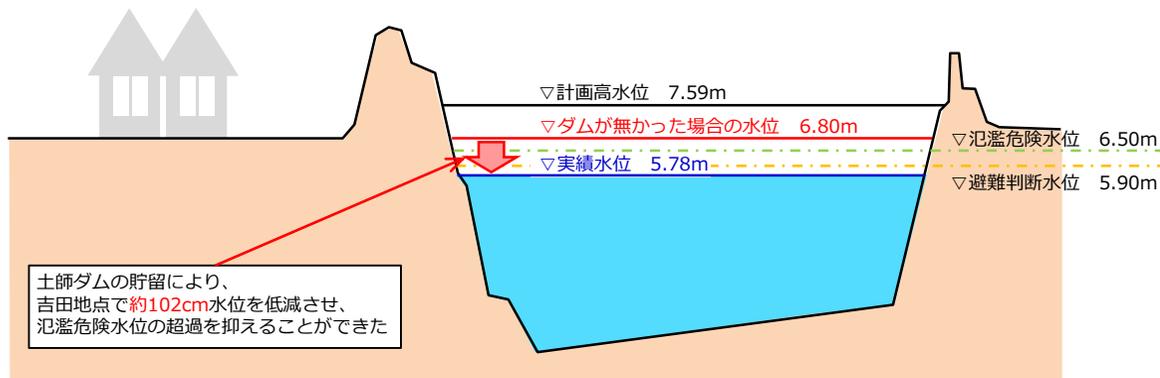


洪水の状況 (安芸高田市吉田町毘沙門橋付近)



平常時

土師ダムの防災操作の効果 (吉田地点)



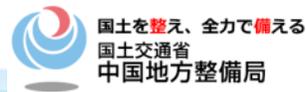
土師ダムの貯留により、吉田地点で約102cm水位を低減させ、氾濫危険水位の超過を抑えることができた



最高水位時 11月2日12時

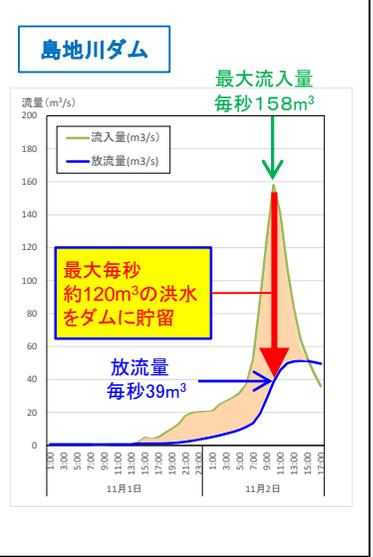
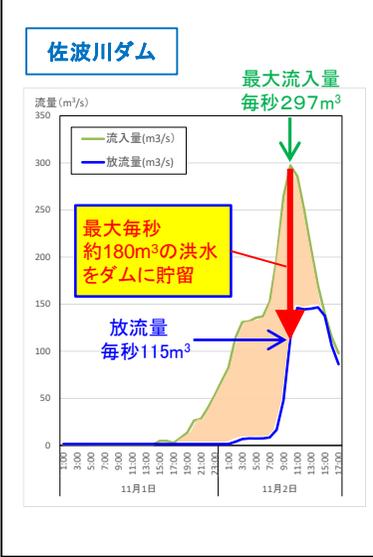
ダムの洪水調節や河川改修による治水効果(佐波川水系佐波川)

速報版

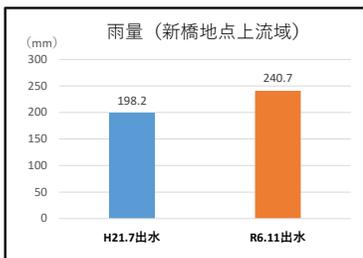


- 佐波川流域では、令和6年11月1日夜から2日朝にかけて大雨となり、堀雨量観測所では、**降り始めからの総雨量が217mmと11月1ヶ月分平均値の3倍に匹敵する記録的な雨量を観測。**
- 佐波川流域では「防災・減災・国土強靱化のための3か年緊急対策」や「防災・減災、国土強靱化のための5か年加速化対策」による河道掘削を実施してきたこと、島地川ダム(国)及び佐波川ダム(山口県)による洪水調節を実施したことにより、9k000(防府市上右田地先)付近において**約1.1mの水位低減効果**を發揮し、氾濫を防ぐことができた。19k800(山口市徳地岸見地先)付近では、仮にダムが無かった場合は越水が生じていたと想定され、**越水による堤防決壊が発生した場合、約50ha、約40戸*の浸水被害が発生していたと推定される。**
- 今回の出水では、平成21年7月出水を上回る規模の雨量(速報値)である。平成21年7月出水においては佐波川流域で河川氾濫や土砂災害による浸水被害が発生したが、**これまでの治水事業および砂防事業により浸水被害を大幅に軽減した。**

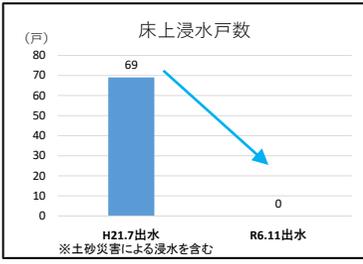
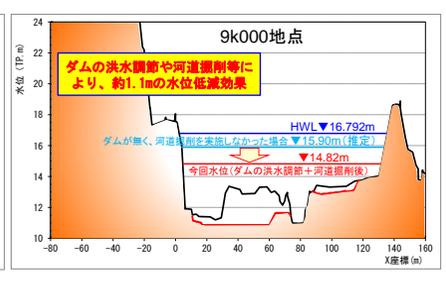
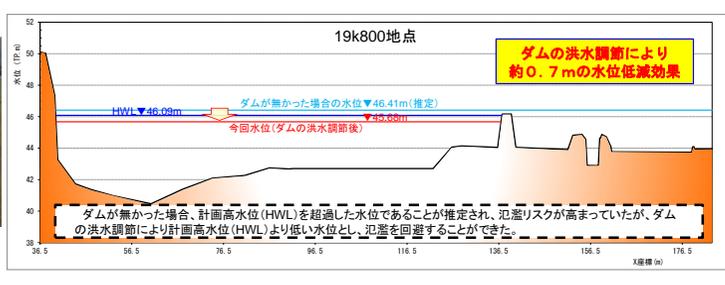
※:治水経済調査マニュアルに基づき実施された氾濫解析のうち、今次出水に近い確率規模(1/5)の計算結果から整理した被害数量



平成21年7月中国・九州北部豪雨により、佐波川流域のいたるところで河川が氾濫し、浸水被害が発生。また、防府市を中心に山口県内各地で土砂災害が多発。



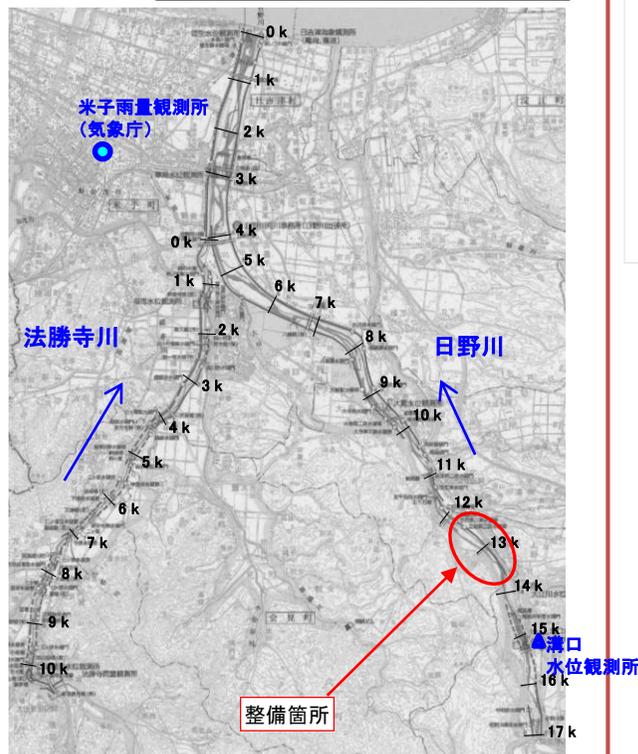
水位低減効果



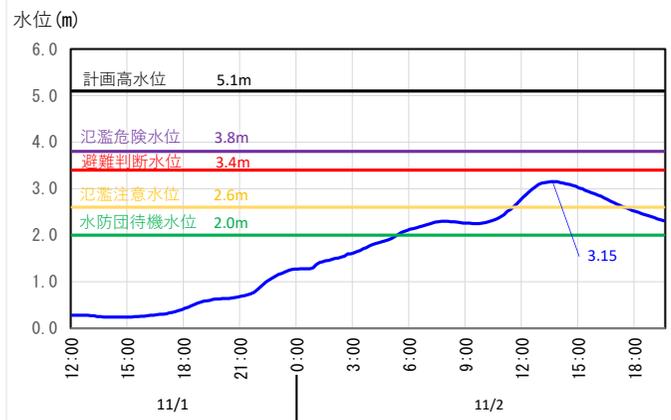
※数値等は速報値のため、今後の精査等により変更する場合があります。特に、雨量については現在も降雨継続のため、今回分については降り始めからとりまとめ時刻までの雨量を示しています。

- 日野川水系日野川では、令和6年11月1日～2日の大雨により、日野川流域の米子雨量観測所(気象庁)では総雨量が176mmに達し、溝口水位観測所(鳥取県西伯郡伯耆町)では、氾濫注意水位を超過した。
- 日野川では、「防災・減災・国土強靱化のための3か年緊急対策」による上細見地区の改修実施(河道掘削)により、13.0k地点では、**約0.3mの水位低減効果**があったと想定される。

位置図



水位(溝口水位観測所)



11月1日 14時頃
出水前



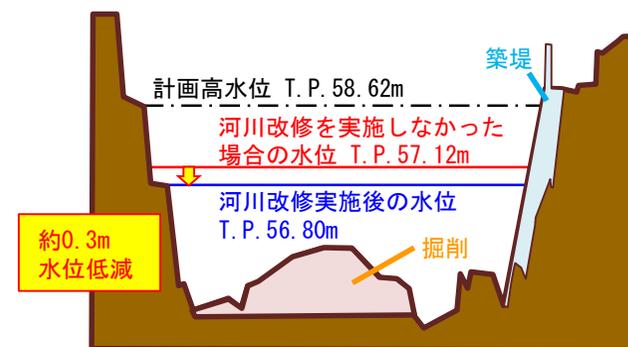
11月2日 14時頃
出水中

近年実施した河川改修



水位低減効果

【日野川13k000横断面図】



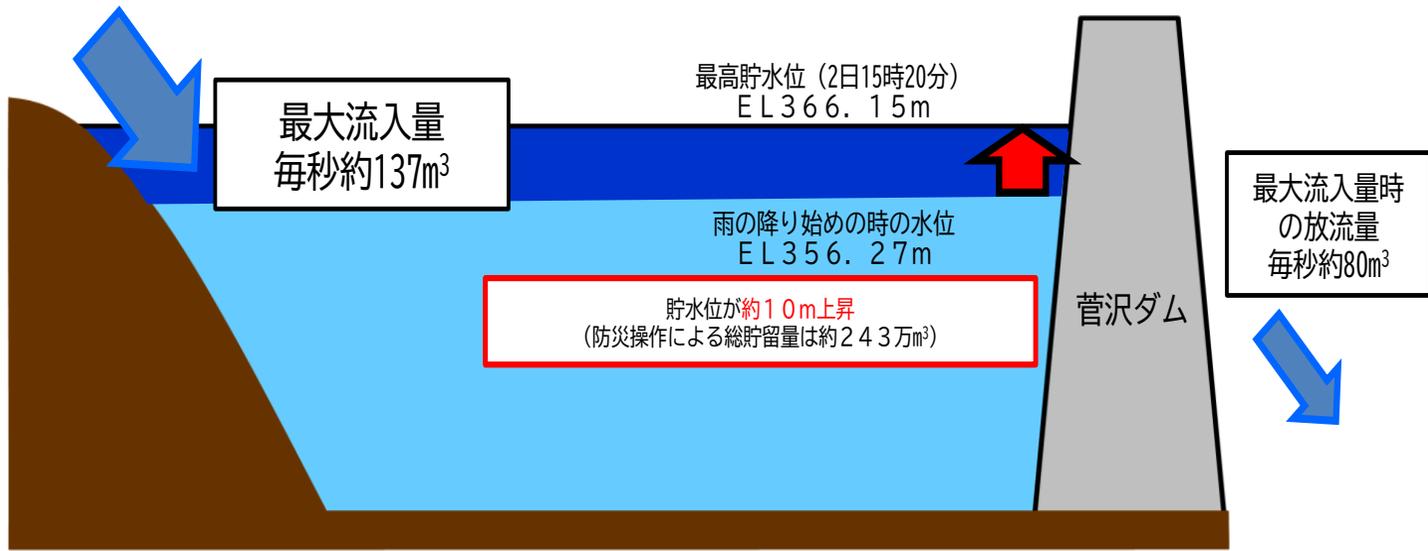
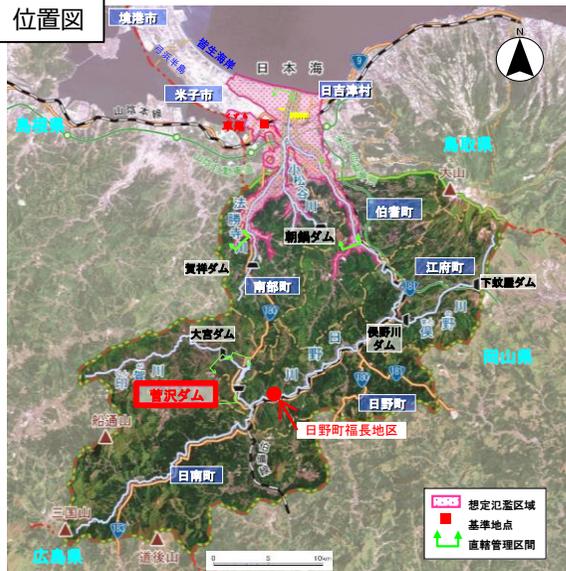
<数値等は速報値のため、今後の精査等により変更となる場合があります。>

菅沢ダム^{すげさわ}の洪水調節効果（令和6年11月2日豪雨）

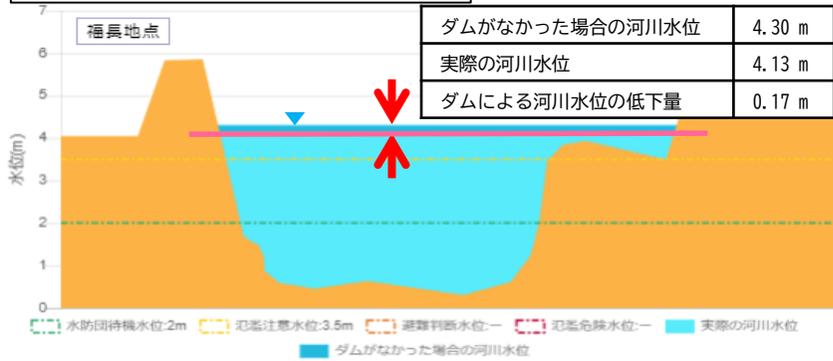
速報版

- 西日本から東日本にのびる台風第21号から変わった低気圧からの前線に伴い、菅沢ダム上流の流域平均累加雨量は193mm(11月1日(金)10:50～2日(土)20:00)を記録しました。
- 菅沢ダムの流入量は最大で毎秒約137m³に達し、このとき毎秒約57m³の洪水をダムに貯め、今回の雨により菅沢ダムが貯めた水の量の合計は約243万m³となりました。
- この結果、鳥取県日野郡日野町福長地区の日野川の^{すげさわ}水位を約17cm低下させることができたものと推定されます。
※ 本資料の数値等は速報値であるため、今後変わることがあります。

位置図



菅沢ダムによる水位低減効果(福長地点)

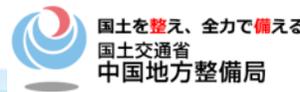


今回洪水の状況（日野町福長付近）



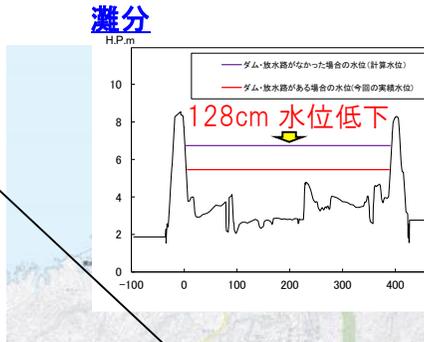
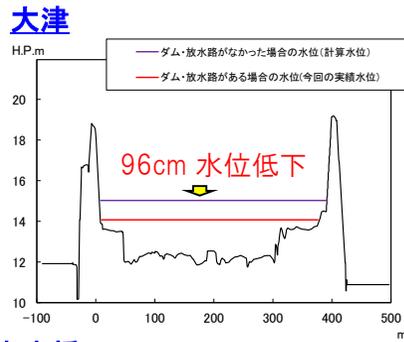
おばら しつみ ちっかわ ほうすいりょう 尾原ダム、志津見ダム及び斐伊川放水路の整備効果

速報版

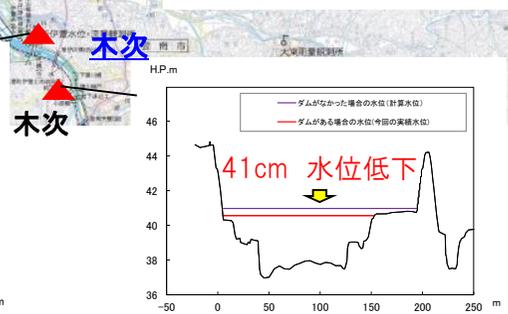
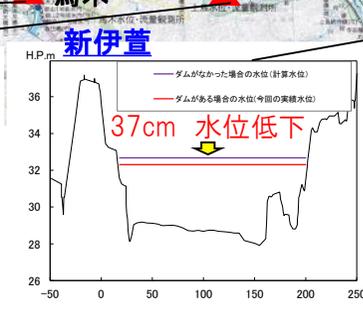
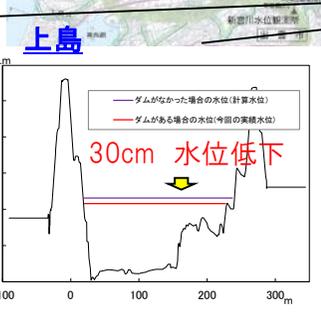
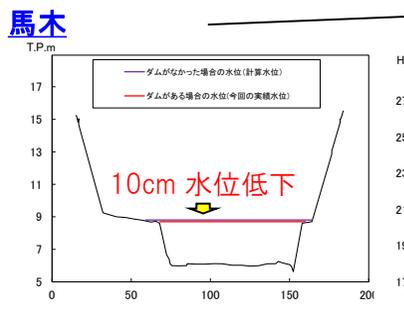
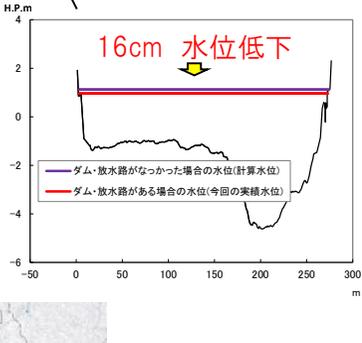
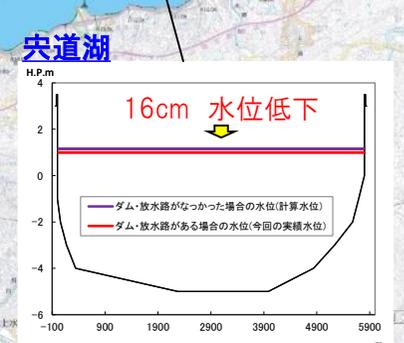
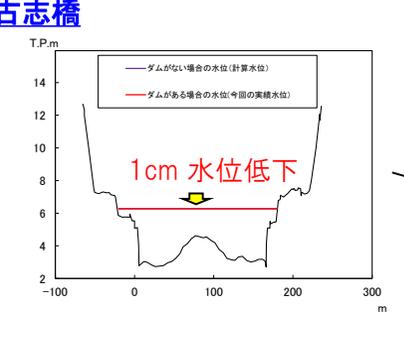
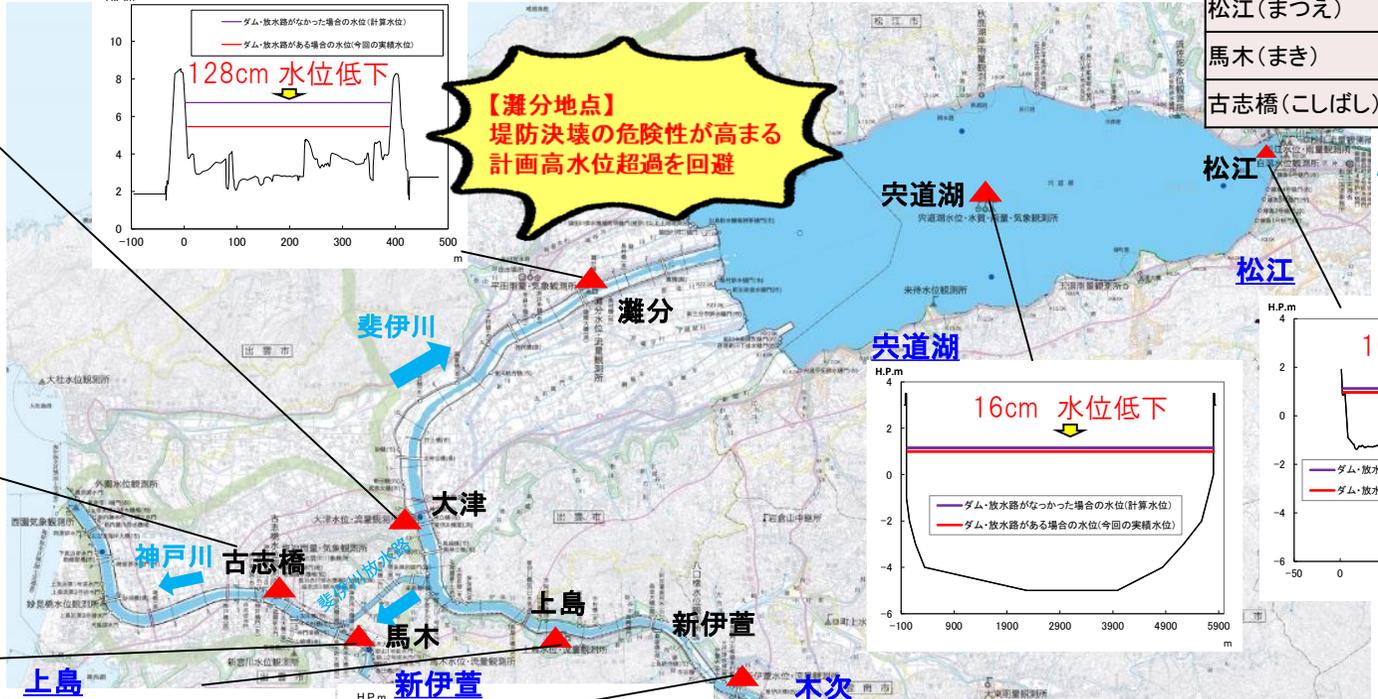


- 斐伊川放水路では、分流を実施し、最大毎秒約660m³を分流。
- 尾原ダムでは、最大流入量毎秒約520m³のうち毎秒約320m³を低減し、ダム下流の木次観測所地点で、ピーク水位を41cm、新伊萱観測所地点でピーク水位を37cm、上島観測所地点で、ピーク水位を30cm低減させる効果があったものと推定。
- 志津見ダムでは、最大流入量毎秒約90m³のうち毎秒約30m³を低減し、ダム下流の馬木観測所地点で、ピーク水位を10cm低減させる効果があったものと推定。
- 2ダム及び斐伊川放水路の効果により、斐伊川本川下流の灘分観測所で、ピーク水位を128cm低減、宍道湖湖心観測所や松江観測所で16cm低減したものと推定。

観測所名	ピーク水位低下量
木次(きすき)	41 cm
新伊萱(しんいがや)	37 cm
上島(かみしま)	30 cm
大津(おおつ)	96 cm
灘分(なだぶん)	128 cm
宍道湖(しんじこ)	16 cm
松江(まつえ)	16 cm
馬木(まき)	10 cm
古志橋(こしばし)	1 cm



【灘分地点】
堤防決壊の危険性が高まる
計画高水位超過を回避



※数値は速報値のため、今後の精査等により変更する場合があります。
ダムなし、ダム・放水路なしの水位は推定値です。

尾原ダムの防災操作による治水効果

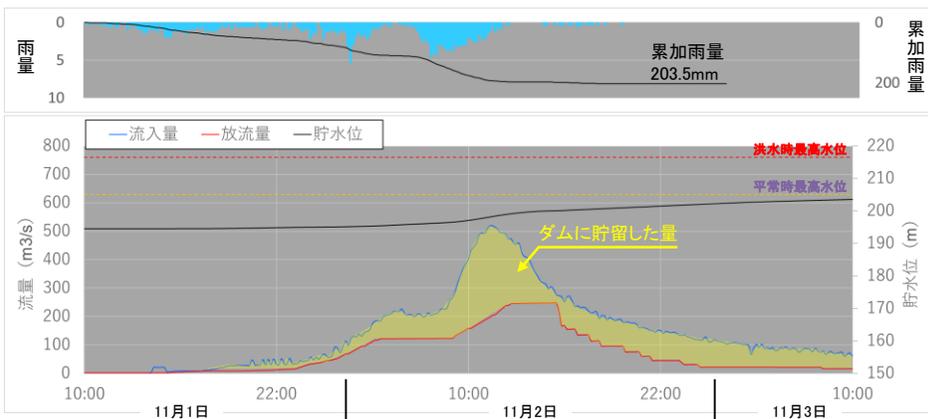
速報版

- 尾原ダム上流では、降り始めからの流域平均累加雨量203.5mmを記録しました。
- 今回の降雨による尾原ダムへの流入量は**最大毎秒約520m³**に達し、この際**毎秒約320m³**を尾原ダムに貯留しました。今回の操作により、尾原ダムに貯留した洪水は**最大約1,280万m³**(25mプール^(※)の約35,600杯分)です。
- その結果、尾原ダム下流の木次観測所地点(雲南市木次付近)で**ピーク水位を41cm低減させる効果**があったものと**推定**。

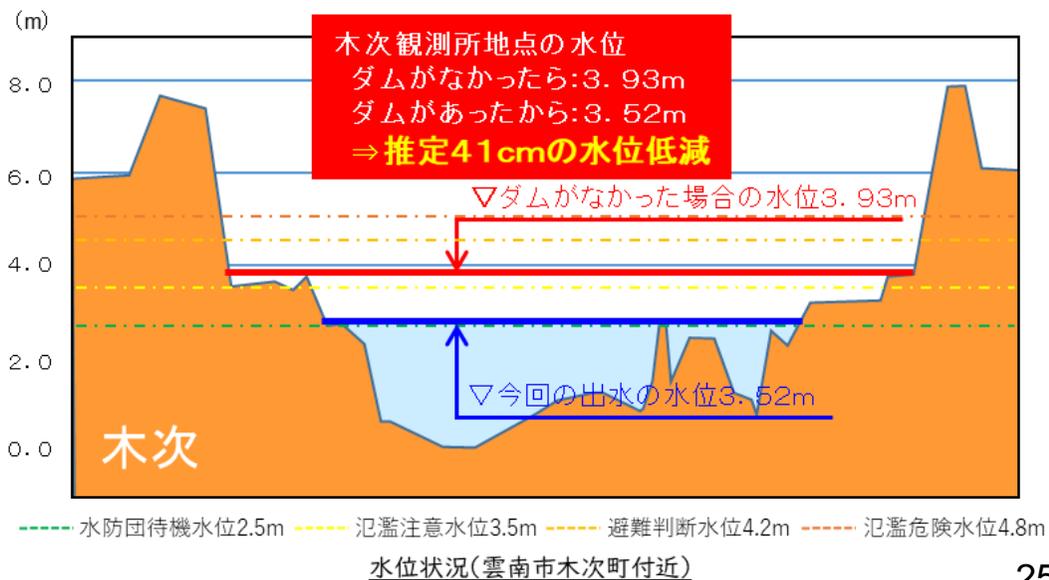
(※) 小学校のプール容量：長25m×幅12m×深1.2m = 360m³として換算



※数値は速報値のため、今後の精査等により変更する場合があります。



尾原ダムにおける整備効果



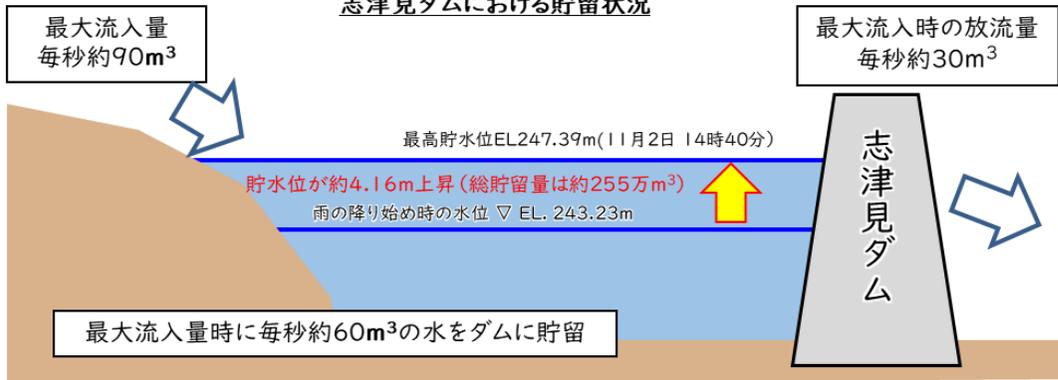
志津見ダムの防災操作による治水効果

速報版

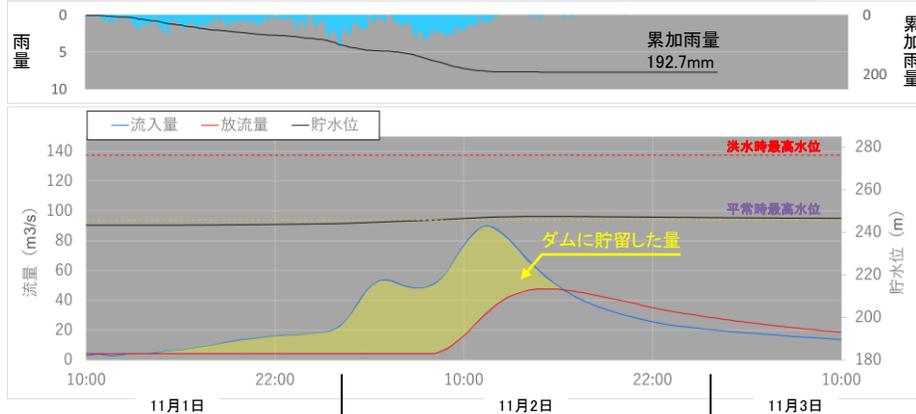
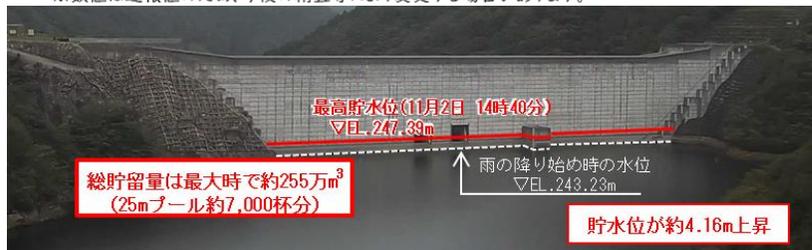
- 志津見ダム上流では、降り始めからの流域平均累加雨量192.7mmを記録しました。
- 今回の降雨による志津見ダムへの流入量は**最大毎秒約90m³**に達し、この際**毎秒約60m³**を志津見ダムに貯留しました。
今回の出水により、志津見ダムに貯留した洪水は**最大約255万m³** (25mプール(※)の約7,000杯分)です。
- その結果、志津見ダム下流の馬木観測所地点 (出雲市馬木付近) で、**ピーク水位を11cm低減させる効果があったものと推定。**

(※) 小学校のプール容量：長25m×幅12m×深1.2m=360m³として換算

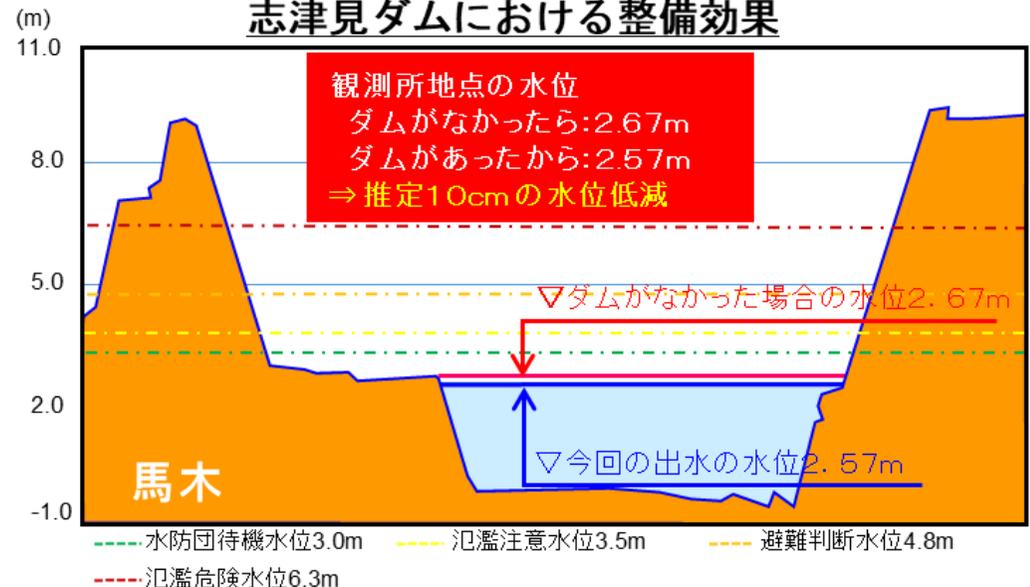
志津見ダムにおける貯留状況



※数値は速報値のため、今後の精査等により変更する場合があります。



志津見ダムにおける整備効果



水位状況(出雲市馬木付近)

【堰改築、堤防整備等の効果】太田川直轄河川改修事業(三篠川)

速報版

○低気圧や前線の影響により、三篠川流域の平均雨量は約205mm(11月1日10:00～11月2日12:00)を記録し、中深川水位観測所では**避難判断水位**を超過しました。

○三篠川では、平成30年7月豪雨による浸水被害以降「防災・減災・国土強靱化のための3か年緊急対策」や「防災・減災、国土強靱化のための5か年加速化対策」による、**河道掘削や堰の改築、堤防整備**を実施しており、整備をしなかった場合には**約8haの土地、29戸の家屋浸水被害が想定**されましたが、今回の洪水では**浸水被害を回避**することができました。

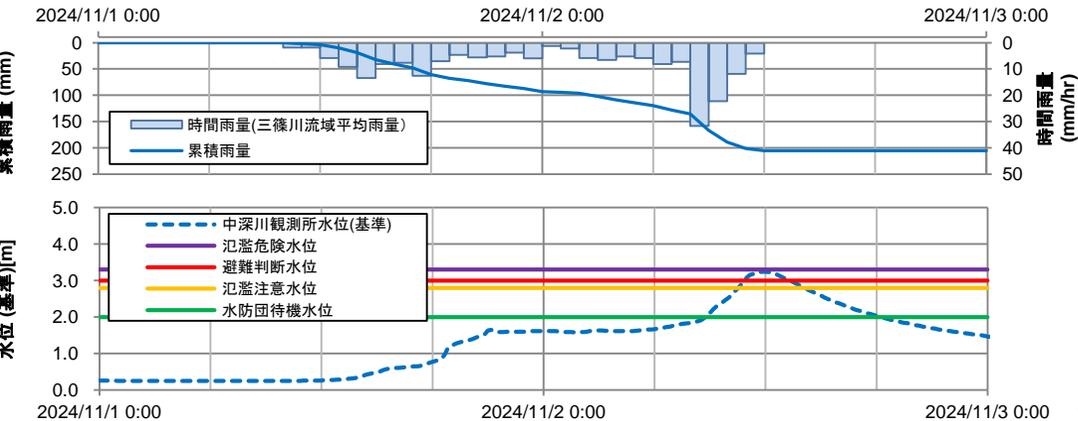
■ 3か年緊急対策・5ヶ年加速化対策(三篠川流域大臣管理区間)



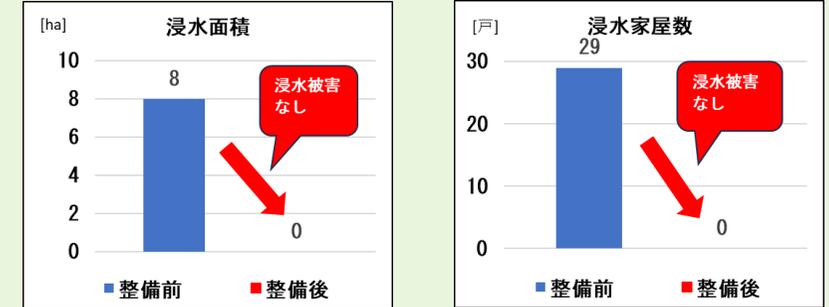
■ 出水状況



■ 三篠川上流域の雨量と中深川水位観測所の水位



■ 今回洪水による整備前後の浸水被害の比較 ※1



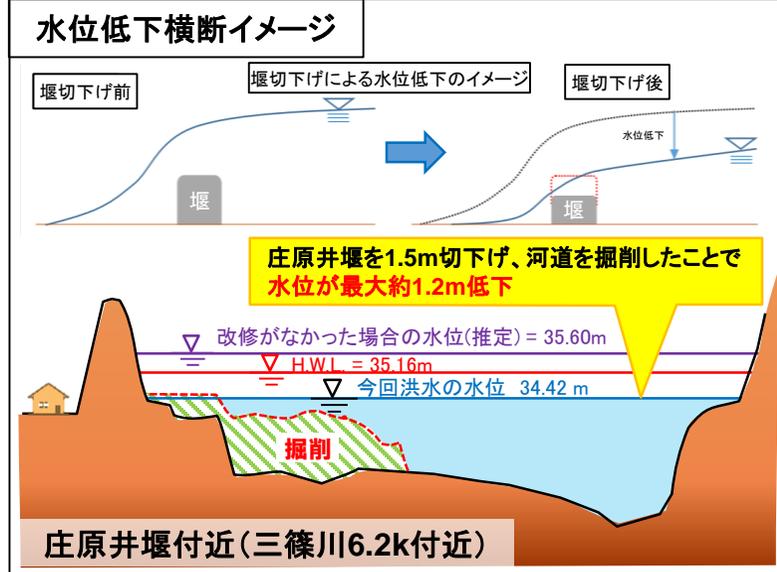
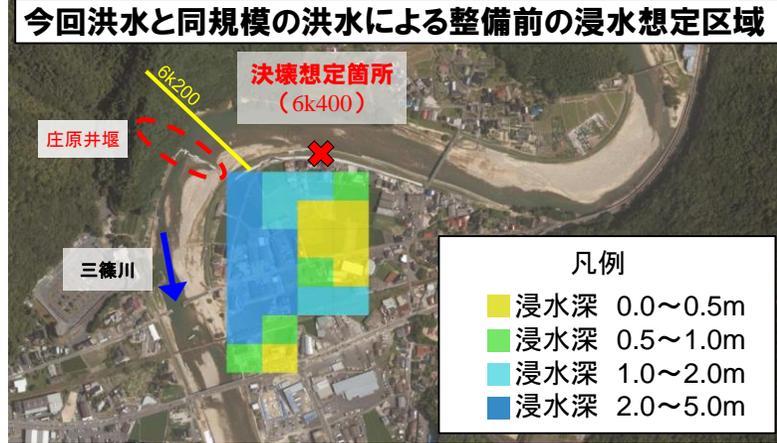
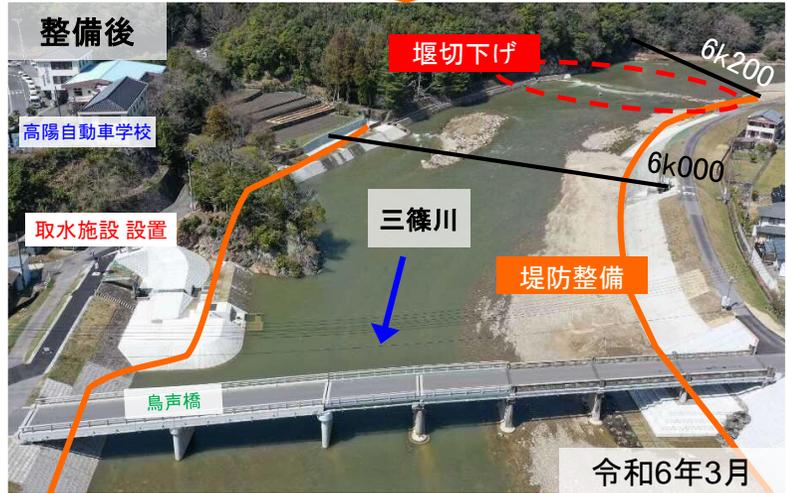
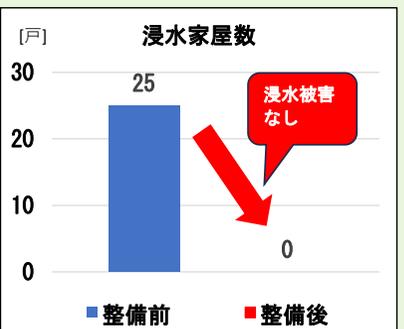
※1 第15回太田川河川整備懇談会資料より整理した。<数値等は速報値のため、今後の精査等により変更となる場合があります。>

【堰改築、河道掘削等の効果】太田川直轄河川改修事業(三篠川:庄原井堰)

- 三篠川の庄原井堰では、平成30年7月豪雨による浸水被害以降「防災・減災・国土強靱化のための3か年緊急対策」や「防災・減災、国土強靱化のための5か年加速化対策」による、河道掘削や堰の改築(切下げ)、堤防整備を実施しています。
- 整備前の河道では、今回洪水によって水位が計画高水位(H.W.L)を超過した可能性がありました。
- 平成30年7月豪雨以降の整備によって、改築(切下げ)した庄原井堰上流の水位を約1.2m低下させ、整備をしなかった場合には約6 haの土地及び25戸の家屋の浸水被害が想定されましたが、今回の洪水では浸水被害を回避することができました。



■今回洪水による整備前後の浸水被害の比較(庄原井堰)※1



※1 第15回太田川河川整備懇談会より整理した。

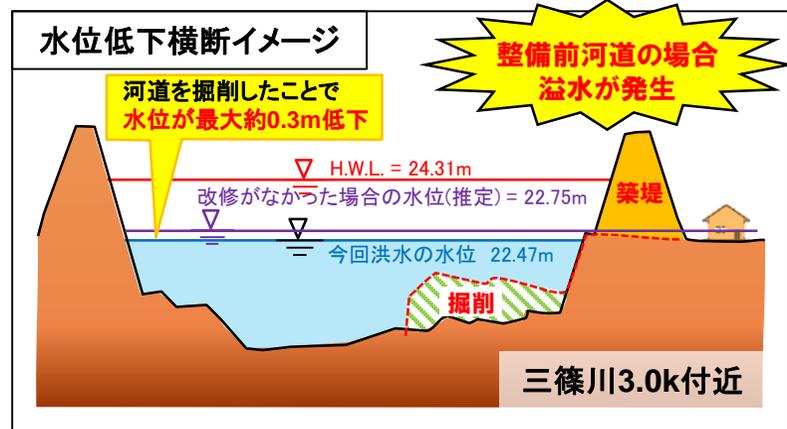
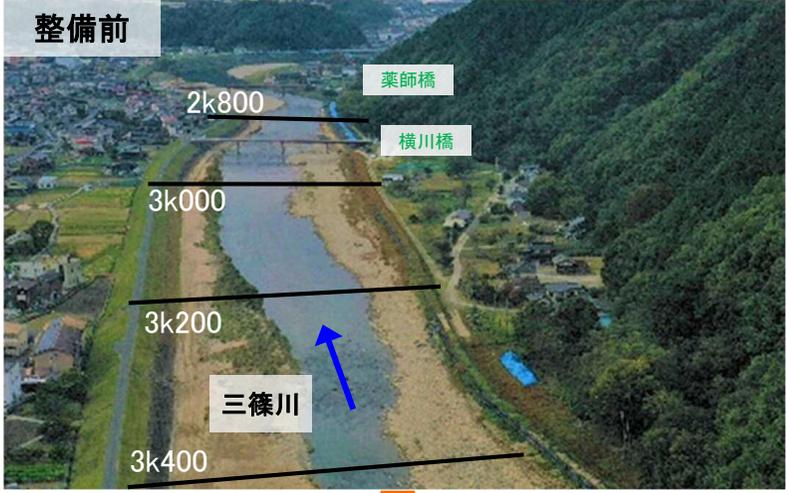
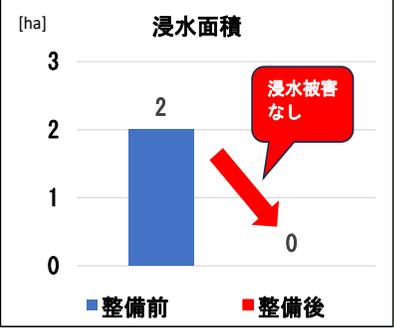
<数値等は速報値のため、今後の精査等により変更となる場合があります。>

【河道掘削、堤防整備の効果】太田川直轄河川改修事業(三篠川: 樽原地区)

- 三篠川の樽原地区では、平成30年7月豪雨による浸水被害以降「防災・減災・国土強靱化のための3か年緊急対策」や「防災・減災、国土強靱化のための5か年加速化対策」による、**河道掘削**や**堤防整備**を実施しています。
- 整備前の河道では、今回洪水によって**水位が地盤高を超え、溢水が発生した可能性**がありました。
- 平成30年7月豪雨以降の整備によって、**水位を約0.3m低下させ、整備をしなかった場合には約2 haの土地及び4戸の家屋の浸水被害が想定されましたが、今回の洪水では浸水被害を回避することができました。**



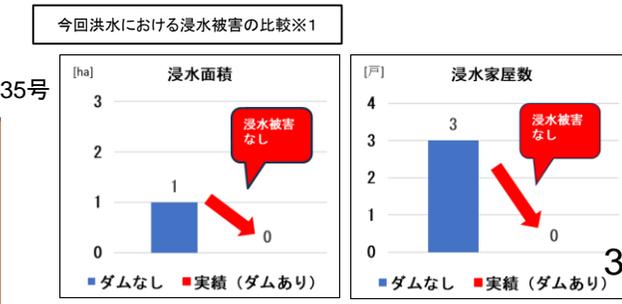
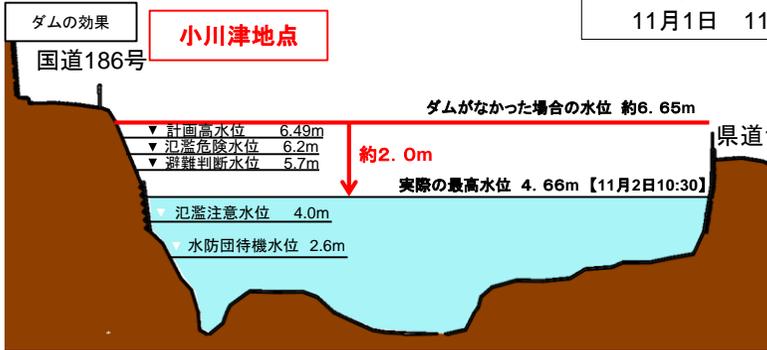
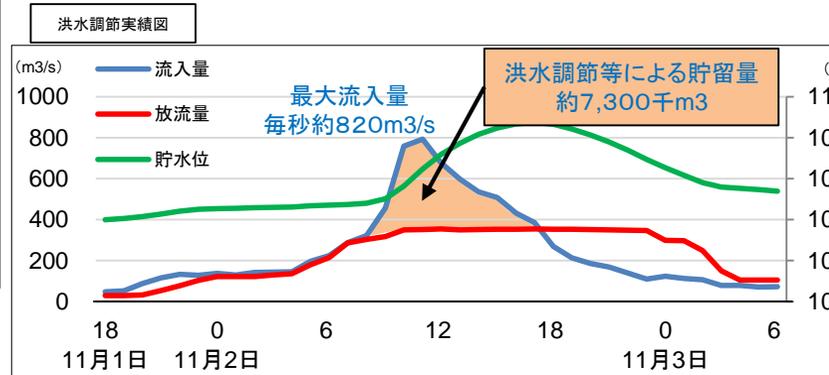
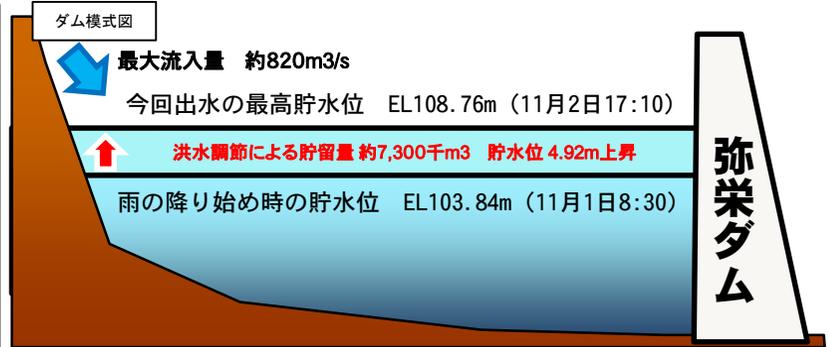
■ 今回洪水による整備前後の浸水被害の比較(樽原地区) ※1



※1 第15回太田川河川整備懇談会より整理した。

弥栄ダム 洪水調節により洪水を貯留し下流河川の水位を低減

- 令和6年11月1日からの台風21号から変化した温帯低気圧と秋雨前線の影響による降雨により小瀬川流域の流域平均累加雨量は267.1mmを記録。
- 弥栄ダムでは下流河川の洪水被害を軽減するため洪水調節を実施し、ダムに洪水を貯留した結果、小川津(山口県岩国市)地点で、**約2mの水位低減効果**が図られたものと推定され、氾濫を防ぐことができた。
- 仮に弥栄ダムがなかった場合、小川津地区において、**県道135号線や約1haの土地及び約3戸の家屋の浸水被害**が発生していたことが推定される。



※1 令和2年度第1回中国地方整備局事業評価監視委員会資料より整理した。